

アジア工科大学が主催するセミナーにて研究発表を行いました (2016/10/28)

テーマ：地震、復興
場所：アジア工科大学(タイ、バンコク)

2016年10月28日(金)に、タイ、バンコクのアジア工科大学(AIT)の Structural Engineering Field of Study が主催するセミナーが開催され、当研究所の村尾修教授(地域・都市再生研究部門 国際防災戦略研究分野)が研究成果を発表しました。

本構造工学セミナーでは、7人の発表者から地震に関連する6つのトピックスについて発表がありました。Warnitchai 教授の挨拶からはじまり、千葉大学の山崎教授から、「2016年熊本地震」について、タンマサート大学の Poovarodom 准教授及び、マヒドン大学の Ornthammarath 講師から、「2016年のM-6.8ミャンマー・バガン近郊地震」についての講演などが行われました。

村尾教授の発表は、「アジアにおける建物復興曲線を用いた復興過程の比較」という題目で行われ、自然災害による被災から、災害対応期を経て、復旧・復興に至る過程を定量的に示す復興曲線に関する方法論を紹介し、これまでに実施したアジア各国の復興曲線に関する研究成果を報告しました。またそれらの可能性についても言及しました。AITの学生や教員から、データ利用の課題等について質問があり、活発な議論を交わすことができました。



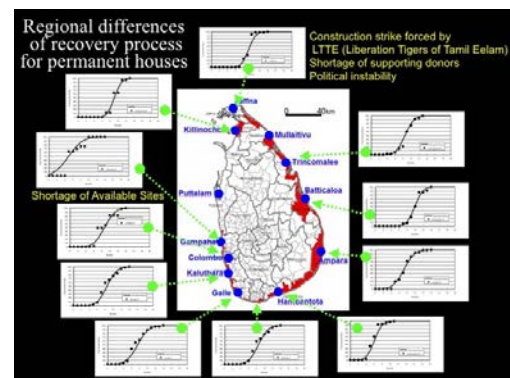
セミナー風景



Warnitchai 教授による趣旨説明



村尾教授による発表



建築復興曲線を用いたスリランカの地域性比較